

町と世界をつなぐ架け橋となるCIR

秋田県小坂町観光産業課観光商工班

鉱山で栄えた小坂町

小坂町は秋田県の北東部、北東北（青森・秋田・岩手3県）のほぼ中央に位置します。町の東部には世界に誇れる国立公園十和田湖が、中心部には国の重要文化財に指定を受けた近代化産業遺産の「小坂鉱山事務所」や日本最古の木造芝居小屋「康楽館」があるなど、多くの観光資源に恵まれた町です。



小坂鉱山事務所



康楽館

町の歴史は古く、1861年に銅・鉛・亜鉛に富む鉱石が発見されて以来、鉱山の町として栄え、明

治以降も大量の銀や銅を産出してきました。良質鉱の減少と円高不況の影響による閉山で採掘は1990年に終了しましたが、複雑鉱（複数の鉱物が混在する鉱石）から黒鉱を製錬する際に培った高度な選鉱・製錬技術を活かしてリサイクル精錬へと産業転換が図られました。現在では、使用済みとなった電気・電子製品などから高品質の金・銀や銅・鉛のほかビスマス・インジウム等のレアメタルに至るまで多種類の金属の回収を行う「リサイクル鉱山」として再生しています。

JICAの研修員と国際交流員

1990年12月に(財)国際資源大学校が静岡県富士宮市から小坂町に移転し、翌1991年からJICAの研修コース（資源開発や環境調和型鉱業開発、汚染防止技術など）が開設されました。現在までに世界85か国から660人の研修員を受け入れてきました。最近ではさらに、開発途上国の環境保護と鉱業の健全な発展を目指す集団研修や地域別研修も実施されています。

JICA研修員との交流事業を中心に町民の国際交流を図るため、1990年8月に初代CIR（国際交流員）デビット・ハマー氏が着任し、1992年には町内の民間国際交流団体として小坂町国際交流協会が設立されました。以来20年の長きにわたり、さまざまな異文化交流が小坂町で展開されてきました。

特にJICAの研修員が滞在する時期（主に10月から11月までと2月）には、町民とJICA研修員との数多くの交流イベントが町中で開かれます。その活動はゲームなどによる歓迎会から始まり、



町民を講師に巻寿司に挑戦

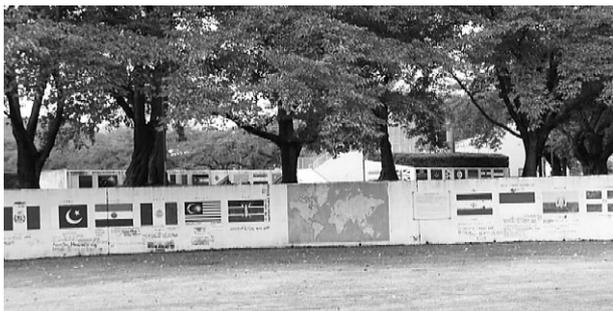


簡単なゲームは言葉より笑顔で通じ合う

日本料理や踊り、日本文化の紹介や書道、着物の着付けや折り紙教室、日本語教室など活動は多彩で、今ではすっかり町内の行事として定着し、町の恒例行事となっています。世界には多くの国や地域があり宗教や生活習慣、文化などが異なること、

上手に英語が話せなくとも心が通じ合えることなどを小坂町にいながら学ぶことができるように、CIRは交流事業の企画、立案に参画し、サポートしてきました。今では町民も積極的に英語が話せなくても、ボディランゲージを交えて参加し、JICA研修員との国際文化交流を楽しんでいます。人と人との触れ合いによる国際交流を進めていく上で、CIRの存在は、町にとって町と世界をつなぐ架け橋となっています。

町内の中央公園の白いコンクリートの壁には、世界各地の国旗が色鮮やかにペイントされています。町を訪れたJICA研修員などと描いた国旗も89か国となりました。



中央公園に描かれている国旗

中高生の海外体験にも同行するCIR

CIRはまた、毎年春休みに行う中高生海外体験旅行を企画し、引率しています。2011年度（16回目）はオーストラリアへの研修に5人の中高生が

参加し、ホームステイをしながら現地の生活習慣、文化、言語を直接体験しました。この研修には、これまで126人の中高生が参加しています。

このほかには、英語による町の情報発信も行っています。1つは小坂町国際交流協会の会報の作成で、これまでに168号が発行されてきましたが、歴代のCIRがそれぞれ色彩や構成に優れたセンスを発揮し、町の内外で非常に好評で高い評価を得ています（英語と日本語の2か国語）。

さらに、外国から来町された方々に向け1年間の小坂町の主な出来事を英字広報ニュースレターとして作成し、昨年は第18号を発行し、401部発送しました（アジア101人、北米・ヨーロッパ・オセアニア115人、アフリカ・南米183人、国内2人）。

現在、10代目のCIRが着任していますが、歴代のCIRは国際交流協会のHPで紹介するとともに、協会会報やニュースレターもお届けしています。来町した外国人は、帰国後大学院に進学したり、国連職員や弁護士、起業家となったり日系企業に就職するなど、思い思いの第二の人生を進まれています。来日の折には小坂町に立ち寄り、町民と旧交を温めています。

5年前からは、人口6千人の小さなこの町にALT(外国語指導助手)も着任しました。昨年度は、スペシャル企画「私たちの町を英語で案内してみよう（6回コース）」として観光業務にかかわっている方を対象に日本語も交えて開催した英会話教室をCIRのクフランさんが、英語だけの英会話教室をALTのコルトンさんがそれぞれ講師として開催し、いずれも好評を博しました。

小坂町では今後も「国際交流の町」として、CIRやALTの力も借りながら、国際的視野に富む人材育成を進めていきたいと考えています。



CIRの英会話教室



ALTの英会話教室